

可部の散策

3

熊谷氏の遺跡・県史跡を中心としたコース

●所要時間/安佐北区総合福祉センターから歩いて約3時間 ●通年楽しめる

⑩ 伊勢が坪城跡
(広島県史跡)

バス利用
大林小学校前
下車。東南へ
300mの丘の上

↑一里塚は、江戸時代の主要街道の整備事業で、一定の距離ごとに往來の目印として松などを植えた。茶店などもあって休憩所として賑わったという。



⑤ 須弥壇を安置した観音堂



⑤ 100mに及ぶ巨石の石垣は見事

広島県史跡

熊谷氏の遺跡めぐり



⑤ 墓所には五輪塔等が40基余り



⑦ 熊谷氏の政庁 土居屋敷跡

熊谷氏は、武蔵野国熊谷郷(現・埼玉県熊谷市)から移り住んだ一族で、源平合戦で勇名をはせた熊谷直実の子孫にあたる。直実の孫である直国は、承久の乱(1221年)の時に近江の国で討ち死にし、その功によって鎌倉幕府から、その子・熊谷直時に三入の荘の地頭職が与えられ、翌年この地(現・可部町大林)に着任した。

地頭職についた熊谷氏は、大林に伊勢が坪城を築き、居城していたが、その後、高松山に城を構えることとなった。長く安芸の国守護・武田氏と深い結びつきを保っていたが、大内氏や毛利氏の積極的な働きかけの結果、遅くとも、天文2年(1533)頃には武田氏を離れ、毛利氏に服従。以来毛利氏とともに活躍し、後の広島城の築城にも大きな役割を果たした。



⑨高松城跡

展望が素晴らしく基町クレドまで見渡せる。熊谷氏は関が原の合戦(1600)後、毛利氏に従い萩に移ったが、その後徳川家康の「一国一城令」により、1615年にこの城は跡形もなく取り壊された。

⑥三入神社

熊谷氏の守護神・祈願社であった。熊谷氏は数々の寄進をしているが、この鐘の由来を刻んだ銘文によると、元龜3年(1572)に熊谷高直が寄進。その後傷ついたため延宝5年(1677)に、海田村(現・海田町)の鋳物師・植木六郎兵衛に造らせたものという。(下に続く)



⑥三入神社境内の銅製梵鐘
(広島市指定重要文化財)

「二人の仙人と犬」「魚にのった人物」の、絵柄入り梵鐘は文化的にも貴重。このため、戦時中に軍隊への強制供出を免れた。



⑤清泉(血洗いの池)

永正14年(1517)熊谷氏は毛利氏との戦い(有田の合戦)に敗れ、熊谷元直が戦死した。熊谷の家来は元直の亡骸を放ったまま帰ってきたので、元直の妻は嘆き悲しみ、怒った。妻は一人で夜道を有田まで駆けつけ、ついに夫の亡骸を探しあて、その遺体の右腕を持ち帰ってこの池で血を洗い清めて葬った。元直の妻の行動は後世に語り伝えられ「武士の妻の鏡」として、褒め称えられた。



⑩伊勢が坪城跡(広島県史跡)

大林小学校の南東300m、高さ30mの丘の上で、熊谷直時が三入の庄に入る時に築いたもの。城跡は地元住民の手でよく整備され、春はサクラとコバノミツバツツジで多くの人が訪れている。



③

木造地藏菩薩立像
(市指定重要文化財)
像高:173cmの菩薩像で板張寄木造。江戸時代初期のものといわれている。8月のお祭り時に公開される。



③九品寺の地藏堂



①旧石州街道の標石



② 旧出雲・石見街道分岐の道標



石州(石見) 街道沿いの名所から

⑧歴史清流公園

このあたりで、1533年に熊谷軍と武田軍との合戦<横川の合戦>があり、熊谷軍が勝利した。敗れた武田勢の討ち死者の死体や首を埋めた首塚が横川橋西方の山麓にあるといわれている。

